「米艦渡来記念ノ図」の一部。ペリー艦隊の随行画家ハイネの名前を描いたもの

黒船絵巻と瓦版

ペリー艦隊の来航を機に、横浜が国際交渉の舞台として選ばれたことは、その後の横浜の歴史にとって大変な出来事であった。米国船と清国の船が、横浜の港を訪れるようになった。ペリー艦隊の来航は、日本を世界に誘うきっかけにもなった。

黒船結集の地として、横浜には多くの記念碑が建立されている。黒船が訪れた日、横浜の港で鼹走路が行われ、ペリー艦隊の来航を祝う会が開かれた。

「遠くの国から来た船」は、日本を国際社会に導入した重要な役割を果たした。この出来事は、日本が世界に開かれた最初の歩みでもある。

（堤和正氏 記）
館長対談

黒船館・吉田直太氏を迎えて

館長（遠藤茂樹）

本日は、遠藤館長。遠藤館長は、昭和四十年に「みつばち」の設立で、黒船館を創設されました。遠藤館長、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

吉田直太氏

吉田直太氏は、昭和四十年に「みつばち」を創設され、黒船館を運営しています。吉田氏、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

遠藤館長

遠藤館長、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

吉田氏

吉田氏、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

遠藤館長

遠藤館長、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

吉田氏

吉田氏、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

遠藤館長

遠藤館長、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

吉田氏

吉田氏、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

遠藤館長

遠藤館長、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

吉田氏

吉田氏、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

遠藤館長

遠藤館長、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

吉田氏

吉田氏、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

遠藤館長

遠藤館長、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

吉田氏

吉田氏、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

遠藤館長

遠藤館長、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

吉田氏

吉田氏、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

遠藤館長

遠藤館長、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

吉田氏

吉田氏、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

遠藤館長

遠藤館長、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

吉田氏

吉田氏、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

遠藤館長

遠藤館長、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

吉田氏

吉田氏、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

遠藤館長

遠藤館長、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

吉田氏

吉田氏、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

遠藤館長

遠藤館長、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

吉田氏

吉田氏、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

遠藤館長

遠藤館長、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

吉田氏

吉田氏、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

遠藤館長

遠藤館長、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

吉田氏

吉田氏、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

遠藤館長

遠藤館長、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

吉田氏

吉田氏、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

遠藤館長

遠藤館長、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

吉田氏

吉田氏、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

遠藤館長

遠藤館長、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

吉田氏

吉田氏、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

遠藤館長

遠藤館長、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

吉田氏

吉田氏、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

遠藤館長

遠藤館長、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

吉田氏

吉田氏、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

遠藤館長

遠藤館長、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

吉田氏

吉田氏、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

遠藤館長

遠藤館長、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

吉田氏

吉田氏、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

遠藤館長

遠藤館長、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

吉田氏

吉田氏、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

遠藤館長

遠藤館長、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

吉田氏

吉田氏、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

遠藤館長

遠藤館長、お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございます。

吉田氏

吉田氏、お忙しい中、お時間を頂き、がありました。
横浜開港資料館館長

遠山館長

（3）

第14号

横浜開港資料館館報

昭和61年2月1日（土）

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続けてきま

後もつと関心をもって続け
幕末のイギリス外交官
アーネスト・サトウ展
余話

英仏使館旧跡の日本外交文献館をお訪ねし、幕末のイギリス外交官たちの事績をもう少し学びました。

アーネスト・サトウ展では、彼が歴史を形成する役割を果たし、日本の近代化を支えた人物のことを学ぶ機会がありました。

この展示は、多くの関連資料と共に、幕末のイギリス外交官たちの活動を想起させる場でした。

最後に、この展示を訪れた皆様に感謝の意を込めて、次回の展示も楽しみにしています。
資料よもやまはなし

フランスの新聞が得た幕末日本の情報

【昭和61年2月1日（土）】
横浜港資料館報
第14号（6）

前回の「開港のひろば」第号でフランスで行われた
資料よもやまはなしの配蔵が紹介され、今
の週刊誌の整理も進んだので、今
回は内容の一冊を紹介してみる。

この新聞は「八八年の四月三日付
にわって刊行された絵入り新聞
である。週刊誌の配蔵も進むなかで、今
のフランス政府の新聞「ミレ」「ノーテイ
で四月四日に配蔵され、知られ
知られた。フランスは、二月
廿五日、絵入り新聞を刊行し、初
回の絵入り新聞を刊行した。その
内容は「八八年三月三日付
にわって刊行された絵入り新聞
である。絵入り新聞にいうとならぬ
ことだが、フランスは、二月廿六日、
絵入り新聞を刊行した。その内容
は「八八年三月三日付」である。"
横浜開港資料館誌
昭和61年2月1日（土）

明治初年の翻訳屋

矢野二郎

明治二年（1869年）頃、矢野二郎は、横浜開港後の初期に翻訳業を営むことになる。彼は、日本が世界に開けていく中で、翻訳を通じて新知識を導入するための橋渡し役を担うことになる。

矢野二郎は、当時の翻訳業界で非常に活躍した人物である。彼は、西洋の技術や文化を日本に導入する役割を果たし、日本社会の近代化に貢献した。

矢野二郎が翻訳した著作は非常に多く、図書や新聞、政府公報などへの翻訳が主な活動であった。彼の翻訳は、日本社会の近代化を加速させる役割を果たしている。

矢野二郎の翻訳業を支えていたのは、横浜開港後の初期の翻訳屋である。「田村屋」である。田村屋は、矢野二郎の翻訳業を支え、彼の活躍を可能にした重要な存在であった。

矢野二郎の翻訳業は、明治初期の社会の変化を反映するものであり、彼の業績は、日本社会の近代化の足跡として正規化されている。

矢野二郎が翻訳した書籍の中には、西洋の科学技術や経済学、哲学を題材にしたものが含まれていた。彼の翻訳は、日本社会の近代化を加速させ、明治初期の社会の変化を反映するものであった。

矢野二郎の翻訳業は、彼の祖父である矢野二郎の発明した翻訳業を支えるものであり、日本社会の近代化を加速させる役割を果たしている。

矢野二郎の翻訳業は、彼の祖父である矢野二郎の発明した翻訳業を支えるものであり、日本社会の近代化を加速させる役割を果たしている。